

問1

【資料1】は、対話と会話の違いを説明し、対話の意義を論じたものです。これを読み、以下の(a)から(f)について、対話に関する筆者の考え方に当てはまるものは○、当てはまらないものは×で答えなさい。

- (a) 対話は、真理を探究する会話であり、物事のきちんとした検討が必要となるため、哲学などの学問的な領域でこそ用いられるべきものである。
- (b) 対話においては、対話するもの同士の立場の違いが重要となるため、コミュニケーションを取るなかでも、それぞれは自分の考え方を変えてはならない。
- (c) 対話によって何か新しいものが生み出されるためには、対話をする人々が自由に意見を出し合い、時には混沌とした状況となることが必要である。
- (d) 対話は、政治や地域など公共の事柄についても、家族や個人のあり方についても、そこで生じる様々な問題を考えていく上で必要なものである。
- (e) 対話においては、何らかの結論が得られることが重要であるため、考え方の近いもの同士の間で行うほうが効率的であり、生産的である。
- (f) 対話によって結論が得られなくても、対話に参加していた人が思考を深め、自分自身の意見を持つことで、それぞれの変化に繋がることもある。

問2

【資料2】は、2001年11月2日に国連教育科学文化機関(UNESCO)の第31回総会で採択された「文化の多様性に関する世界宣言」より、全12条のうち最初の1-3条を抜粋したものです。これを読み、以下の問いに答えなさい。

- 1. 下線①を70字以内で日本語に訳しなさい。
- 2. 下線②を90字以内で日本語に訳しなさい。
- 3. 括弧(ア)から(オ)に入る語を、下の語群から一つずつ選んで書き入れなさい。  
《 society, everyone, future, diverse, together 》

問3

【資料3】は、日本における対話のあり方に関する平田オリザと北川達夫の対談です。これを読み、以下の問いに答えなさい。

- 1. 対談のなかで、「価値観をすり合わせる」という言葉が繰り返し出てきます。以下の(a)から(c)について、平田と北川がいう価値観をすり合わせる事として不適当なものを一つ選びその記号を書きなさい。

- (a) 価値観を意図的に衝突させ、それによってお互いに変わり、前向きに妥協点を探ること。
- (b) 異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションにおいて、価値観の違いを論理的に考えて、それを論理的に相手に伝えること。
- (c) 見解の対立があっても、摩擦を回避せずに、お互いに変わっていくことを前提に話し合いをはじめること。

- 2. 平田はなぜ対話の基礎体力を養うことが必要と考えているのでしょうか。【資料3】を踏まえて100字以内で述べなさい。

#### 問4

【資料4】は、日本在住の10代から60代の5216人を対象として実施された、日本におけるダイバーシティとインクルージョンに関する意識を調査した結果の一部です。グラフは、社会的マイノリティとされる「LGBTQの人」、「身体障害のある人」、「精神障害、発達障害、知的障害のある人」、「日本で暮らしている外国籍の人」、「ミックスの人など、見た目が日本人に見えない人」、「高齢者（おおむね75歳以上の方）」とかかわったことのある人数とその期間、親密度（仲の良さ）を調査し、接触頻度と密度別に、「接触多×密度濃」、「接触多×密度薄」、「接触少×密度濃」、「接触少×密度薄」、「0人or見かけたことがあるだけ」の5つのグループに対象を分類し、グループごとに、「心の壁」を意識しなかった割合を表したものです。なお、ここでいう「心の壁」とは「社会的マイノリティに対して、関わりを避けたり、先入観や見た目で行動や価値観に違いがあるだろうと決めつけてしまう意識のはたらきのこと」です。

この資料について、以下の問いに答えなさい。

1. 【資料4】を読み、下記の(a)から(f)の各文章のうち、グラフの内容として適切であるものに○、適切ではないものに×で答えなさい。なお、資料中にある「密度」とは親密度のことである。

- (a) 日本で暮らしている外国籍の人に対して、接触が多く、親密度の濃い人たちでは、40.9%の人が心の壁を意識しないと回答しなかった。
- (b) 精神障害、発達障害、知的障害のある人に対して心の壁を意識しない人の人数の割合が最も低いのは、それらの人と接触が多いが親密度の薄い人たちである。
- (c) 身体障害のある人では、接触なし（0人or見かけたことがある程度）を除けば、接触が多い場合でも少ない場合でも、密度が濃い人たちで心の壁を意識しない人の人数の割合が大きい。
- (d) LGBTQの人に対して、接触が多く親密度の濃い人たちでは、心の壁を意識する人の人数が、意識しない人の人数よりも多い。
- (e) このグラフの縦軸は、0に近づくほど心の壁を強く意識することを表している。
- (f) ミックスの人など、見た目が日本人に見えない人と接触が多く親密度の濃い人たちでは、それ以外の社会的マイノリティの人と接触が多く親密度の濃い人たちよりも心の壁を意識しない人の割合が高い。

2. 社会的マイノリティの種類にかかわらず、「接触なし（0人or見かけたことがあるだけ）」の人たちでは、「接触が多く親密度の薄い人たち」「接触が少なく親密度の濃い人たち」「接触が少なく、親密度の薄い人たち」よりも、心の壁を感じない人の人数の割合が高くなります。これがなぜ生じるのか、その理由にも触れたうえで、このことが示す課題について、あなたの考えを200字以内で述べなさい。

#### 問5

現代は、価値観や考え方の異なる者同士が共に生活することの求められる「多文化共生社会」と呼ばれる社会です。このような社会においてはどのような「対話」が必要となってくるでしょう。【資料1】から【資料4】までのすべてを踏まえ、あなたの考えを600字から800字で述べなさい。

【配点】問1、問2、問3、問4：合計150点 問5：150点 総計：300点

## 資料の出典

### 【資料1】

河野哲也『人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学』岩波書店（2019）  
〔一部省略〕

### 【資料2】

ユネスコ第31回総会「文化の多様性に関する世界宣言」（2001）の一部  
<https://en.unesco.org/about-us/legal-affairs/unesco-universal-declaration-cultural-diversity> 〔2022年11月10日最終閲覧〕

### 【資料3】

北川達夫・平田オリザ『ニッポンには対話がない 学びとコミュニケーションの再生』三省堂（2008）〔一部省略〕

### 【資料4】

日本財団「『ダイバーシティ&インクルージョン』に関する意識調査」（2019）の一部  
[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/08/new\\_pr\\_20190823\\_01.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/08/new_pr_20190823_01.pdf)  
〔2022年11月10日最終閲覧〕

聖心女子大学 2023(令和5)年度 一般選抜(総合小論文方式3月期) 問題

問1 【資料1】は、学ぶことの意義について、外界と内界の適応という点から論じたものです。【資料1】を読み、以下の問いに答えなさい。

(1) 空欄  に入る最も適切なものを次のアからエの選択肢の中から1つ選びなさい。

ア. 社会的要請      イ. 知的好奇心      ウ. 歴史的意義      エ. 心理的成長

(2) 空欄  にあてはまる最も適切な文言を文中から探して答えなさい。

(3) 【資料1】の著者が学ぶことの意義としてあげているのはどのようなことか。それがわかる一文を本文からそのまま抜き出さなさい。

問2 【資料2-1】と【資料2-2】は、高等教育(学部・短大)在学者の専攻分野別の実数と構成比を示したものです。【資料2-1】と【資料2-2】を読み、下記の(a)から(e)の各文章のうち、適切であるものに○、適切でないものに×で答えなさい。

(a) フランスでは、他の国に比べ、「人文・芸術」の専攻分野に在学している人の割合が高い。

(b) 日本では、「人文・芸術」と「法経等」の専攻分野に在学している女性を足すと、日本の女性の在学者全体の半数を超えている。

(c) 日本では、「理学」「工学」「農学」「医・歯・薬・保健」のいずれの専攻分野においても、女性より男性の在学者が多い。

(d) 男女別の割合が示されている国の全てにおいて、「教育・教員養成」の専攻分野の在学者数は男性より女性が多い。

(e) いずれの国も、在学者数が最も多い専攻分野は「法経等」である。

問3 【資料3】は、大学4年生を対象に、大学の授業で能力・スキルが養われる機会があったかに関する項目を尋ねたアンケートの結果です。下記の(a)から(d)の各文章のうち、適切であるものに○、適切でないものに×で答えなさい。

(a) 「経済系統」は、他の系統と比べ、どの項目においても最も割合が低くなっている。

(b) 「法学系統」は、他の系統と比べ、どの項目においても最も割合の高いものがない。

(c) 「理工系統」は、「全体」と比べ、どの項目においても割合が低くなっている。

(d) 「人文系統」の中では、他の項目に比べ、「問題解決力」の項目の割合が最も高くなっている。

問4 【資料4-1】と【資料4-2】を読み、以下の問いに答えなさい。

- (1) 【資料4-1】の下線部①を日本語に訳しなさい。
- (2) 【資料4-1】の文章で想定されている classical education は、児童生徒の成長に合わせて何段階かに階層化されているが、この階層化の基準となっているものは何か。原文中から抜き出しなさい。
- (3) 【資料4-1】の下線部②の “myth” をオンライン英英辞書 *Merriam Webster* で検索すると、【資料4-2】の6つ (1a、1b、2a、2b、3、4) の記載があった。ここでの意味として、最も適切なものを①から⑥の選択肢の中から1つ選び、解答欄に書きなさい。
- (4) 【資料4-1】で、真・善・美の追究やリベラルアーツ等を通して、classical education が伝授しようとしていることは何か。第1段落を参考にして日本語5字以上10字以内で答えなさい。

問5 【資料1】から【資料4-1】の内容をもとに、高等教育における専攻分野が何であれ、世界や人間、社会について学ぶ教養教育の意義を考え、600字から800字で答えなさい。

【配点】問1、問2、問3、問4：合計150点 問5：150点 総計300点

## 資料出典一覧

### 【資料1】

田島司、『自分というジレンマ 批判・反抗・反問する私たちの射影』、ナカニシヤ出版、2020年より一部抜粋

### 【資料2-1、2-2】

文部科学省、「諸外国の教育統計」令和3年(2021)年版、[https://www.mext.go.jp/content/20210602170043-mxtchousa02-000015333\\_46.xlsx](https://www.mext.go.jp/content/20210602170043-mxtchousa02-000015333_46.xlsx) [2022.1105 最終閲覧]より

### 【資料3】

ベネッセ教育総合研究所、VIEW21 大学版 2011 特別号 Vol.1 再構築が迫られる大学の人材育成システム、「【データで見る】学生の実態と社会で求められる力のギャップ」[https://berd.benesse.jp/up\\_images/magazine/021.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/021.pdf) [2022.1105 最終閲覧]より

### 【資料4-1】

Classical Academic Press, “WHAT IS CLASSICAL EDUCATION?”, <https://classicalacademicpress.com/pages/what-is-classical-education> [2022.0913 最終閲覧]より文章を作成

### 【資料4-2】

Merriam Webster, “myth”, <https://www.merriam-webster.com/dictionary/myth> [2022.0913 最終閲覧]より文章を作成、一部改変